



学校だより

9月号



みのたなくん

～豊かで調和のとれた子の育成～

[た]くましく生きる人 [な]かよく生きる人

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tana/>

コロナ禍の中、地域に支えられた取組

校長 酒井 浩明

8月17日、短い夏休みが明け、学校に子どもたちの姿が戻ってきました。

欠席が増えることもなく、元気に登校してきていることに安心しています。

しかしながら、コロナ予防を継続し、熱中症の危険防止に気を付けて、学習を進めています。

その中でも、暑さ指数の「**嚴重警戒**」になる前の1・2時間目に、5年生は稲の観察に出かけ、2年生は田奈っ子菜園に出かけ、短時間で収穫したり草取りをしたりしています。

そして、汗をかきながら戻ってきた2年生の子どもたちは、水分補給をして、収穫したトマトやナス、ピーマンを誇らしげに見せてくれました。

また、一斉休業期間中の5月中に子どもの様子を書いていただいた、2年生の保護者からの電子メールには、

- ・畑へ夏野菜の観察・お世話をすることは外へ連れ出す良いきっかけとなっています。
- ・田奈っ子菜園に2～3日に一度、水やりに行き、それぞれの野菜の成長ぶりを写真に収めています。
- ・畑の肥沃な土で育つ植物の生命力に感心しています。
- ・田奈っ子菜園は、散歩を兼ねて週一で行っています。ミニトマトが、でき始めていて、喜んでいました。

というような、親子で栽培活動を楽しんでいる姿が書かれていました。

コロナ禍の中、2年生がこのような体験が5月からできているのは、栽培用の植木鉢ではなく、田奈っ子菜園を生活科の栽培学習で使うようにかえ、苗植え等で保護者の方の協力があったからです。

また、このような取組に変更できたのは、地域協力者の鴨志田清さんが継続して、本校の田奈っ子菜園の維持管理にご協力をいただいている

からです。

具体的には、鴨志田清さんにトラクターで、4月の職員作業の畝づくりの前に畑全体を、夏休み期間中のお盆の前には、今後利用する部分を、雑草含めて耕していただきました。

今回もこのおかげで、8月18日には、職員数人だけで午前中に1・2・3年生の晩夏用畝をつくることができました。

これから、小松菜、蕪、大根、ブロッコリーなどの栽培を考えているようです。

農家の方のように、「雑草なし」の畑にはできませんが、地域にお住まいの方も、田奈っ子菜園がどのように使われているか、買い物帰り等にでも、ご覧いただければ幸いです。

加えて、熱中症予防に傘を差して間をあけ、マスクを外しての登下校を続けています。下校時に気が緩んで、マスクを外して大きな声で話す気になる姿が見られましたら、「傘を差してマスクを取って帰っているときは、大きな声を出さないように学校で言われているよね。」と子どもたちに、気付かせていただければ助かります。

今後ともコロナ禍ではありますが、田奈小学校のよさをできるだけ生かした教育活動の実施を模索しながら、子どもたちが楽しく、健やかに成長していけるように努めますので、保護者と地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

地域向けの「新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けて」の文部大臣メッセージを学校ホームページに掲載していますので、ご覧ください。



<収穫を待つミニトマト>